武蔵野東教育センター会報

“ Heart to Heart ”

心から心へ　わかちあう　あたたかさ

第１巻　第４号

発行日　平成19年3月30日

目次:

新年度を力強い発信で	1
コラム：育ちの大切さ	2
コラム：療育に思う	2
ギャラリー紹介	2

新年度を力強い発進で

桜の開花とともに平成19年度を迎えますが、年度の切り替わりとともに、お子さんはそれぞれ地域の幼稚園や保育所また学校において、進級や入園・入学と教育活動の環境が変わります。このような環境の変化を目の前にして、子どもたちのみならず保護者の皆様も、楽しみと不安が同居したそわそわするような気持ちでおられるのではないでしょうか。

この年度末には、担当スタッフと療育プログラム受講の保護者の方との懇談がありましたが、その報告を聞いてとくに気になったことは、これから学校に入る方の不安にも増して、現在通っている学校における活動の在り方に強く不安をもたれている方が多いことでした。現状ではまだ私どもから公的教育機関である地域の学校に働きかけたり、情報を交換したりするという関係には至っていませんが、先方から連絡をいただいたり、何らかの依頼があったりした場合にはその限りではありません。昨年度中にも何件かあったように、お子さんのプラスになることには快く対応していきたいと思います。保護者の皆様には、今後とも学校の先生と地道にコミュニケーションを築きながら、当教育センターの認識を深めていただけるようにご協力をお願いします。私どもとしても、今年度は療育を受けているお子さんの幼稚園や学校の先生方を対象とした見学説明会を、年３回設けます。学校の先生においても、受け持っているお子さんが通っている療育機関の説明を受けることは有意義であると思いますので、皆様からお誘いしていただければ幸いです。

さて、この４月からは、昨年療育を受けたお子さんを含めて、また新たなグループと担当スタッフのもとに活動が始まります。変化に弱いといわれるこの子どもたちですが、担当の先生方が子どもたちにかける思いの引力でこうした環境の変化をのり越えさせ、適応する力を子どもたちにやしなっていきたいと思います。

なお、今年度のセミナーは年間５回に限定し、学園卒業生の保護者や学園の先生も講師に招いて、日々の生活や指導に密着した内容構成をもって開催しますので、どうぞ機会を逸されないようにご参加ください。

長内博雄（武蔵野東教育センター所長）

コラム　障害者擁護にたずさわって（３）

育ちの大切さ

副島　洋明　(副島弁護士事務所)

人としての育ちのところで、大人から大切にされかわいがられて育ったという体験、それは成人してからも“苦境”におちいった時にとても重要だと、つくづく思い知らされています。経済的に恵まれた家庭であったとか、障害や症状に特に配慮されたかということではないように思います。

事件や問題は、確かにその当時の周囲の理解や支援との関係に左右されるものです。それでも子ども時代に親をはじめ、大人からかわいがられてきたという“育ち”は、それは記憶を超えて“身”につくようなものでしょうが、誰にとっても苦境から脱してこの社会で生き直すとき、人との関係でよみがえってくるものではないでしょうか。他人（社会）への信頼というか関係との距離というか、接近の容易さに影響してくるもので、この人たちにとっては支援へのつながりやすさになってきます。育ちの良さは人にとって生きる力をつくる、そういえると思います。

このコラムは４回シリーズでお届けしています。

療育に思う　＜コラム　Mr．Tのつぶやき＞

某日、通勤中のバスの車窓から、乗り込んで来る人の列をぼんやり眺めていると、見覚えのある懐かしい顔が目に入った。卒業生のA君だ。彼の記憶が走馬灯のように蘇る。担任ではなかったが、A君とはお互いに顔見知りだった。ざっと20年ぶりだろうか。運転手さんへの礼儀正しい挨拶や、定期券の見せ方も小学生の頃に下校指導で教わったとおり励行している。成人の所作としてはやや固めだが、「純朴な青年」ともとれる範疇だろうか。20数年間続けてきたバス乗車の儀礼を終え、くるりとこちらを向いた彼と目が合った。「T先生、おはようございます！」バスの前から後ろまで、大きめの声での挨拶だ。車内が一瞬静かになり、乗客全員の視線がA君へ、そして私の方へ。私は、A君が「純朴な青年」の範疇でいるよう祈りつつ、胸元で小さく手をふって挨拶をかえした。私の心配に反して、A君を見る乗客の視線がとてもやさしく見えた。久しさ、懐かしさの感情をストレートに表現したA君と、はにかんだ表情の私。そして、状況を理解し笑みを浮かべ合う乗客の人々。朝のバスの車内がほのぼのと暖かく感じられた。

ギャラリー紹介

今回は、個性あふれる節分の鬼、折り紙で折ったおひなさま、粘土やビーズで作った肖像画と花ビンなどを紹介します。花束は、お母様へのプレゼントとして作った作品です。
教育センターでは、子どもたちの豊かな発想や感覚を大切に育んでいきたいと考えています。それには基盤となる力が必要となりますので、いろいろな作品を仕上げて達成感を味わうとともに、模倣力を養い基礎的な技術が身につくよう支援しています。繰り返し練習することで、自信もついて徐々に独自の創造性を発揮することができるようになってきます。